

NEC
Express5800 シリーズ

PowerChute[®] Business Edition v.7.0

リリースノート

ごあいさつ

本リリースノートには、『インストールガイド PowerChute® Business Edition v.7.0』に関する補足情報が記載されています。『PowerChute® Business Edition v.7.0』をお使いになる前に、必ずお読みください。

関連する著作権情報や商標については、これらのマニュアルを参照してください。

本リリースのソフトウェア/ハードウェア要件については、上記のインストールガイドおよび本書を参照してください。

本書について

PowerChute Business Edition v.7.0 リリースノート :

本リリースノートは次の項目で構成されています。

- はじめに
- インストールの概要
- 運用上の問題点と注意事項
- サーバノード数の制限
- サードパーティのソフトウェア情報

著作権

Microsoft®、Windows® は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Smart-UPS®、PowerChute® は American Power Conversion Corporation の登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Red Hat® は、Red Hat, Inc. の登録商標です。

その他の会社および製品の名称は、総てそれぞれの所有する登録商標または商標です。

目次

第 1 章	はじめに	1
第 2 章	インストールの概要	1
	2.1 システム要件	1
	2.2 ハードウェア要件	3
	2.3 インストール上の問題	3
	PowerChute plus が既にインストールされている場合	3
	セットアッププログラムが UPS を自動検出できない	3
	インストール時のエラーメッセージ	4
	シリアルポートの設定	5
	UPS 通信リンク	6
	2.4 設定プロファイルの作成ウィザード	7
	2.5 設定プロファイル	7
	電源保護方針	8
	設定プロファイル変更時のエラーおよびステータスメッセージ	10
	2.6 デバイスリスト設定ウィザード	11
	2.7 デバイスリスト	12
	検出手順	13
	デバイスリスト登録時のエラーおよびステータスメッセージ	13
第 3 章	運用上の問題点と注意事項	17
	DNS サーバが見つからない場合のネットワーク通信上の問題	17
	PowerChute Business Edition のアンインストール	17
	Windows XP の制限付きユーザ	18
	UPS セルフテストがログに記録されないことがある	18
	コンソール上でイベントがクリアされない	18
	スタンバイモードでの Agent 非作動	19
	コマンドファイルを実行するには	19
	PowerChute Business Edition の E-Mail 受信者に 使用できる文字について	19
	「デバイスのプロパティ」で表示される UPS の情報欄について	19
	Linux サーバで PowerChute Business Edition エージェントを 使用している場合に表示されるメッセージについて	20
	PowerChute Business Edition を Windows XP で使用時、 「デバイスリストの設定」画面に間違ったホスト名が 表示される現象について	20
	PowerChute Business Edition コンソール、 デバイスリストウィザード、および設定プロファイルウィザードの 画面が正しく表示されない	21
	UPS 装置を使用して Windows Server 2003 サーバの 電源制御を行う場合の注意	21
	Windows Server 2003 で WebUI を使用する際の注意	22
	WebUI を使用する場合	22

Windows マシン上でポップアップメッセージを表示させるには	23
Windows Server 2003 のターミナルサービス経由の アンインストールについて	23
OS アップグレードおよび Service Pack 適用	23
PowerChute Business Edition アンインストール時の UPS 通信ケーブルの取り外し	23
PowerChute Business Edition の E-Mail 通知機能に関して	24
エクスポートの区切り文字についての制限事項	24
PowerChute Business Edition のスケジュール機能を 使用してシャットダウン / 起動の自動運転を行う際の注意	24
WebUI の「接続しているすべてのユーザに通知」により メッセージ送信される範囲	25
WebUI のイベントアクション設定一覧の画面で E-Mail 通知に丸印がつかないイベント	25
WebUI のイベントアクション「ローバッテリー状態」の 説明について	25
WebUI のタイムアウト時間について	25
WebUI の「連絡先の名前」、「システムの場所」に 入力可能な文字について	26
Windows Server 2003 でシャットダウンタイプを 「休止する」にして使用する際に記録されるログについて	26
シャットダウンタイプを「シャットダウンと電源オフ」に 設定して運用する際の注意	27
シャットダウンタイプを「休止する」に設定して運用する際の注意	27
ランタイム較正を実行中にスケジュールシャットダウンを 行っても UPS がオフされない	28
UPSsleep 実行の際に引数として指定可能な最小の次回起動時間	28
UPSsleep 実行の際に引数として指定可能な最大の次回起動時間	28
最終バッテリー交換日に設定可能な日付	29
サービスおよび「コマンドファイルのディレクトリ」にて 表示されるパス情報について	29
PowerChute Business Edition v.6.1 との混在について	29
旧バージョンの PowerChute Business Edition が既に インストールされている場合について	30
Linux の PowerChute Business Edition エージェントサービスの 動作確認について	30
Linux の PowerChute Business Edition エージェントからの ユーザ通知について	31
Linux サーバ上で config.sh によりシグナリングタイプの 変更を行った場合の注意	31
Red Hat Enterprise Linux AS/ES 3.0 を使用する際の注意	31
MIRACLE LINUX Standard Edition 2.1 の OS 名が 正しく表示されない	32
Windows 環境にて、Smart-UPS500J を使用している場合の 注意事項	32

第 4 章	サーバノード数の制限	32
--------------	-------------------	-----------

第 5 章	サードパーティのソフトウェア情報	32
--------------	-------------------------	-----------

1 はじめに

PowerChute Business Edition v7.0 をインストールして使用する前に、この文書の各項目を必ずお読み下さい。この文書には、主に製品のインストールに関する情報が記載されており、その他に、運用に関する情報や、サーバノード数の制限、さらにサードパーティのソフトウェア情報に関して記載しています。

2 インストールの概要

2.1 システム要件

PowerChute Business Edition v7.0 の各コンポーネントは、以下の OS をサポートしています。

- Windows 2000 Professional/Server/Advanced Server (Service Pack 4以降)
- Windows XP Professional (Service Pack 1a以降)
- Windows Server 2003 Standard Edition/Enterprise Edition/Small Business Server (32bit 版のみ)
- Red Hat Linux Professional 7.3 (PowerChute Business Edition エージェントのみ)
- Red Hat Enterprise Linux AS/ES 2.1 (PowerChute Business Edition エージェントのみ)
- Red Hat Enterprise Linux AS/ES 3.0 (PowerChute Business Edition エージェントのみ)
- MIRACLE LINUX Standard Edition 2.1 (PowerChute Business Edition エージェントのみ)

また、TCP/IP ネットワークに接続されており、以下の条件も満たしていなければなりません。

① PowerChute Business Edition エージェントの要件

要件	最低	推奨
プロセッサ	Pentium III 500MHz	Pentium III 600MHz
RAM	128 MB	128 MB

② PowerChute Business Edition サーバの要件

要件	最低	推奨
プロセッサ	Pentium III 600MHz	Pentium III 700MHz
RAM	256 MB	256MB

③ PowerChute Business Edition コンソールの要件

要件	最低	推奨
プロセッサ	Pentium III 500MHz	Pentium III 600MHz
RAM	128MB	128MB
解像度	800 x 600	1024 x 768 (以上)
表示色数	16ビットカラー	24ビットカラー
Internet Explorer のバージョンは 6 以降		

※ PowerChute Business Edition サーバコンポーネントに含まれる「デバイスリストウィザード」、「設定プロファイルウィザード」についても上記要件を満たす必要があります。

WebUI 機能を使用するには、Web ブラウザは以下をご使用ください。

- Windows マシンからエージェントにアクセスする場合、Internet Explorer 6 以降をご使用ください。

※ Windows マシンから Internet Explorer を使用する場合は JRE v1.4.1 または v1.4.2 をご使用ください。

- Linux マシンからエージェントにアクセスする場合、Netscape 7.0 をご使用ください。

※ Linux マシンから Netscape を使用する場合は JRE v1.4.1 をご使用ください。

注意：Windows マシンから Internet Explorer Version6、または Linux マシンから Netscape 7.0 を使用して WebUI 機能を利用する場合、Sun の Java Runtime Environment (JRE) が必要となります。

注意：「32 ビット Microsoft 仮想マシン (Microsoft VM)」では WebUI 機能をご利用できません。

注意：Red Hat Enterprise Linux AS/ES 3.0 マシンに Netscape をインストールする際、OS のインストール CD-ROM 媒体に含まれている「compat-libstdc++-7.3-2.96.122.i386.rpm」を先にインストールして下さい。

2.2 ハードウェア要件

- 本製品をインストールする本体装置
Express5800 シリーズ
- UPS と本体装置を接続するシリアルケーブルは、本製品に同梱されているインタフェースケーブル (940-0024C) を使用してください。
- 本体装置の仕様により、使用可能なシリアルポートが限られている機種があります。本体装置添付の「ユーザーズガイド」を参照し、使用可能なシリアルポートを事前に確認してください。

2.3 インストール上の問題

PowerChute *plus* が既にインストールされている場合

PowerChute Business Edition と PowerChute *plus* を同一コンピュータ上で使用することはできません。PowerChute Business Edition コンポーネントのインストール時に、そのコンピュータ上に PowerChute *plus* がインストールされていることが検出された場合、インストールされている PowerChute *plus* のバージョンに応じて次のいずれかのメッセージが表示されます。

メッセージ	説明
セットアッププログラムは、PowerChute <i>plus</i> を検出しました。このソフトウェアは、PowerChute Business Edition のセットアッププログラムを実行する前に削除しておく必要があります。PowerChute <i>plus</i> を削除しますか？([はい]を選択すると、セットアッププログラムが終了します。)	[はい] を選択すると、既存の PowerChute <i>plus</i> 5.x がアンインストールされます。[いいえ] を選択した場合は、インストールが中止されます。
セットアッププログラムは、PowerChute <i>plus</i> を検出しました。この製品をアンインストールしてからもう一度セットアッププログラムを実行して下さい。	セットアッププログラムは、既存の PowerChute <i>plus</i> 4.x をアンインストールすることはできません。PowerChute Business Edition コンポーネントをインストールする前に、PowerChute <i>plus</i> をアンインストールする必要があります。

セットアッププログラムが UPS を自動検出できない

ここでは、インストールプログラムが UPS の自動検出に失敗する場合の対処方法について説明します。次のような場合、インストール中に [UPS タイプと通信ポート] 選択画面が表示されます。

- 本 UPS は「自動検出」を行わず、「手動」で設定してください。「自動検出」を実行すると「PowerChute Business Edition はこの機種の UPS をサポートしていません」というメッセージが表示され、インストールが終了します。UPS タイプは「Smart-UPS」を選択してください。

手動設定がうまく実行できない場合は、以下の原因が考えられます。

- ターミナルエミュレータ等の他のサービスが、UPS が接続されているシリアルポートを使用している。該当するシリアルポートを使用しているサービスを終了するまたは UPS を他のシリアルポートに接続し、再び、手動で UPS タイプと通信ポートの設定を行って下さい。
- UPS が接続されているシリアルポートの通信設定が誤っている。5 ページの「シリアルポートの設定」を参照して下さい。
- UPS とコンピュータ間の接続に問題がある。6 ページの「UPS 通信リンク」を参照して下さい。

インストール時のエラーメッセージ

PowerChute Business Edition のインストール時に表示されるメッセージを次に示します。

メッセージ	説明
UPS サービスを停止できません。再起動してからもう一度セットアップし直して下さい。	セットアッププログラムは Windows 2000/XP/2003 標準 UPS サービスを停止できませんでした。コンピュータを再起動してから、PowerChute Business Edition エージェントを再インストールして下さい。
<エージェント/サーバ>サービスのインストール時にエラーが発生しました。再起動してからもう一度セットアップし直して下さい。	PowerChute Business Edition サービスのインストールに失敗しました。まだ PowerChute Business Edition のファイルがインストールされていないこと、およびコンピュータの OS が適切なものかどうかを確認した後(1 ページの「2.1 システム要件」を参照)、もう一度インストール作業を行って下さい。
次の dll のロード時にエラー<ID>が発生しました:<dllのID>	セットアッププログラムが DLL ファイルのロードに失敗しました。コンピュータの OS が適切なものかどうかを確認し(1 ページの「2.1 システム要件」を参照)、1 ページの「① PowerChute Business Edition エージェントの要件」で説明している条件を満たしていることを確認の上、もう一度インストール作業を行って下さい。
必要なリソースのロードに失敗しました。	PowerChute Business Edition コンポーネントのインストールに必要なリソース(DLL リソース、InstallShield リソースなど)をロードできませんでした。コンピュータに十分なメモリがあることを確認してから(1 ページの「2.1 システム要件」を参照)、もう一度インストール作業を行って下さい。
パスワードが 3~16 文字ではありません。	3~16 文字のパスワードを使用して下さい。

メッセージ	説明
PowerChute Business Edition をインストール、実行するには管理者権限が必要です。いったんログオフしてから、管理者権限を持つアカウントを使ってセットアッププログラムを再実行して下さい。	PowerChute Business Edition コンポーネントをインストールするには、コンピュータに対する管理者権限が必要です。
選択されたパスが有効かどうか判断できません。ローカルハードドライブ上のディレクトリを選択して下さい。	PowerChute Business Edition をネットワークドライブ、フロッピーディスクドライブ、zip ドライブなどの、ローカルハードディスク以外のドライブにインストールすることはできません。
標準 UPS サービスの再起動に失敗しました。電源保護を有効にするには、手でサービスを再開するか、システムを再起動する必要があります。	PowerChute Business Edition エージェントをインストールするために停止させた OS 標準の UPS サービスを再開することができません。コンピュータを再起動するか、または手作業でサービスを再開して下さい。
両方のパスワードが一致していなければなりません。	[パスワード]と[確認]に入力した内容が一致しないと PowerChute Business Edition コンポーネントをインストールすることはできません。
ユーザ名が 3~16 文字ではありません。	3~16 文字のユーザ名を使用して下さい。

シリアルポートの設定

ここでは、シリアルポートにシリアルケーブルを接続する場合について説明します。UPS を接続しているシリアルポートの設定を表示するには、次の作業を行って下さい。

コントロールパネルから次の各項目を順番に開いて下さい。

1. [システム]アイコン
2. [ハードウェア]タブ
3. [デバイスマネージャ]ボタン
4. [ポート]アイコン

ポートは、次のように設定しなければなりません。

パラメータ	設定
ボーレート(ビット/秒)	2400
データビット	8
パリティ	なし
ストップビット	1
フロー制御	XON/XOFF

UPS 通信リンク

ここでの説明では、スマートシグナリング UPS とコンピュータ OS 間の接続を確認するためにハイパーターミナルを使用していますが、任意のターミナルエミュレータを使用することができます。

1. COM ポートを他のサービスが使用していないことを確認します。
2. 次の手順に従ってハイパーターミナルを起動します。

Windows 2000/XP/Server 2003 の場合、[通信] フォルダに移動して ([スタート] → [プログラム] (Windows XP の場合は [すべてのプログラム]) → [アクセサリ] → [通信])、[ハイパーターミナル] アイコンをクリックして下さい。

※注意：Windows Server 2003 については「ハイパーターミナル」がインストールされていない場合があります。その場合、「Windows コンポーネントの追加と削除」から「ハイパーターミナル」をインストールして UPS との通信確認作業を行って下さい。

3. [接続の設定]ダイアログに、ハイパーターミナル接続を識別する名前を入力して [OK] をクリックします。
※注意：「... モデムをインストールして下さい」のようなメッセージが表示された場合は、それを無視して下さい。
4. [接続の設定] ダイアログの[接続方法]に、UPSが使用するシリアルポートを指定後

<Windows Server 2003 の場合 >

[構成] をクリックし、5. の設定を行ってください。設定を終えたら [OK] をクリックしてください。[接続の設定] ダイアログに戻りますので、[OK] をクリック後 6. に進んでください。

<Windows 2000/XP の場合 >

[OK] をクリックし、5. に進んでください。

5. [ポートの設定] ダイアログの各項目に、次の値を設定します。
 - ボーレート :2400 ビット / 秒
 - データビット :8
 - パリティ :なし
 - ストップビット :1
 - フロー制御 :Xon/Xoff
6. 空の画面が表示されたら、大文字の Y を入力します。画面に SM(Smart Mode) の文字が表示された場合、シリアル通信リンクに問題はありませぬ。SM と表示されない場合は、手順⑦に進んで下さい。
7. 大文字の A を入力します。画面に OK と表示され、UPS のブザーが鳴りフロントパネルの LED が点滅した場合 (UPS にアラームやフロントパネルの LED が無い場合を除く)、UPS は正常に信号を受信していません。ただし、次のような理由により信号を送信できない場合があります。
 - UPS からコンピュータへ信号を送信するための機能が壊れている。インタフェースケーブル障害が発生している。

- コンピュータのシリアルポートが信号を受信できない。割り込みの衝突やシリアルポートの誤動作などの原因が考えられます。

手順 6. で画面に「SM」と表示されない場合には、他のシリアルケーブル、他のシリアルポート、他のコンピュータ、または他の UPS を使用してハイパーターミナルから同じ操作を行い、問題点の切り分け、究明を行って下さい。

2.4 設定プロファイルの作成ウィザード

PowerChute Business Edition サーバをインストールする場合、セットアップの最後に設定プロファイルの作成ウィザードが起動します。このウィザードを使って、PowerChute Business Edition サーバの初期設定プロファイルを作成します。設定プロファイルには、次の項目を定義します。

- イベント発生時に PowerChute Business Edition サーバがユーザに通知するための手段。
- PowerChute Business Edition エージェントが使用する電源保護方針。

初期設定プロファイルの作成後は、PowerChute Business Edition コンソールを使って設定プロファイルを変更することができます。PowerChute Business Edition コンソールを利用できない場合は、設定プロファイルウィザードを起動してプロファイルを変更することもできます。このウィザードを起動するには、[スタート]→[プログラム]→[APC PowerChute Business Edition]→[設定プロファイルウィザード]を選択するか、または PowerChute Business Edition インストールフォルダ中の「wizard.exe」を実行して下さい。

ウィザードを使った初期設定プロファイルの作成方法、および既存のプロファイルの変更方法については、7 ページの「2.5 設定プロファイル」を参照してください。ウィザード使用中に表示されるメッセージについては、10 ページの「設定プロファイル変更時のエラーおよびステータスメッセージ」を参照してください。

2.5 設定プロファイル

UPS の設定プロファイルウィザードを使って、PowerChute Business Edition サーバのデバイスリストに記載されたシステムに適用する設定プロファイルの作成、変更することができます。変更手順は以下のようになります。

1. ウィザードの初期画面で [次へ>] をクリックすると、設定プロファイルの作成作業を始めることができます。
2. PowerChute Business Edition サーバが管理するシステムにイベントが発生した場合の通知手段を選択して、[次へ>] をクリックします。
 - ポケベル (E-Mail を受信できる機種でのみ利用可能です。)
 - E-Mail 通知
 - ブロードキャストメッセージ
3. 選択した通知手法に応じて適切な設定を行い、[次へ>] をクリックします。
4. PowerChute Business Edition サーバのデバイスリストに記載されているシステムの電源保護方針を選択し (8 ページの「電源保護方針」を参考にして決定してください。)、[次へ>] をクリックします。

注意：電源保護方針の設定を変更した場合、新しい設定プロファイルが **PowerChute Business Edition** サーバの、デバイスリスト中のすべてのデバイスに適用される旨メッセージが表示されます。これは、電源保護方針を変更した場合、デバイス個別に行った設定が上書きされるためです。

このメッセージは、初めて設定プロファイルを作成する場合や、**PowerChute Business Edition** サーバのデバイスリストにシステムが登録されていない場合には表示されません。

5. [システムのシャットダウン]を確認して、[次へ>]をクリックします。
6. [設定の概要]ダイアログボックスには、選択した設定プロファイルの設定内容が表示されています。設定内容を変更する場合は [< 前へ] を、この設定内容を適用する場合は [次へ>] をクリックします。
7. PowerChute Business Edition サーバのデバイスリストにシステムが登録されていない場合、または電源保護方針を変更していない場合は、[変更が完了しました]ダイアログボックスが表示されたらウィザードを終了して下さい。それ以外の場合は、8. に進んで下さい。
8. 既存の設定プロファイルの、電源保護方針の設定を変更した場合、変更内容は PowerChute Business Edition サーバのデバイスリストに登録されているシステムに適用されます (4. を参照)。[設定プロファイル結果]ログには、各システムの設定プロファイルの更新ステータスが表示されます。[設定プロファイル結果]ログに、更新が完了したことを知らせるメッセージが表示されたら、ウィザードを終了して下さい。

注意：設定プロファイル作成時および変更時に表示されるメッセージやログエントリについては、10 ページの「設定プロファイル変更時のエラーおよびステータスメッセージ」を参照して下さい。

電源保護方針

電源保護方針には、電源障害イベント発生時のシステムのシャットダウンと再起動に関する方針を指定します。

- [バッテリー容量を保持する (安全性を重視)] は、システムのアップタイムよりも安全にシャットダウンすることの方が重要な場合に選択します。
 - この項目を選択した場合、電源障害時に UPS のバッテリー状態が 1 分間継続すると、シャットダウンが開始されます。
 - 電源障害により UPS のシャットダウンが行われた場合、バッテリーが 90% 以上充電された時点で UPS が再起動されます。
- 注意：シャットダウンは、すぐに解決しないと重大な問題を引き起こすようなイベントが発生した際に行われます。電源方針に [バッテリー容量を保持する (安全性を重視)] を選択した場合に、システムのシャットダウンを行う契機となるイベントについては、9 ページの「(1) シャットダウンイベント (安全性を重視)」を参照してください。
- [サーバの稼働時間を最大限にする (ランタイムを重視)] は、アップタイムを最大にすることが重要なミッションクリティカルなサーバを保護する場合に選択します。
 - この項目を選択した場合、電源障害時に UPS は電源供給が可能な限りバッテリー動作を行った後、シャットダウンが開始されます。つまり、バッ

テリ残量がシステムが安全にシャットダウンするために必要なランタイムになるまでの間、動作し続けます。

- 電源障害により UPS のシャットダウンが行われた場合、電源が復旧するとすぐに UPS が再起動されます。

注意：シャットダウンは、すぐに解決しないと重大な問題を引き起こすようなイベントが発生した際に行われます。電源方針に【サーバの稼働時間を最大限にする（ランタイムを重視）】を選択した場合に、システムのシャットダウンを行う契機となるイベントについては、9 ページの【(2) シャットダウンイベント(ランタイムを重視)】を参照してください。

注意：選択した電源方針がすべてのシステムに対して適切だとは限りません。このような場合は、**PowerChute Business Edition** コンソールを起動して、各システムの【デバイスのプロパティ】ダイアログにある【電源障害】オプションから、そのシステムの電源保護方針を変更してください。

注意：電源保護方針を変更した場合、**PowerChute Business Edition** サーバのデバイスリストに登録されているすべてのシステムに新しい設定プロファイルが適用されます。

(1) シャットダウンイベント (安全性を重視)

[バッテリー容量を保持する (安全性を重視)] (電源保護方針) を選択すると、次のいずれかのイベントが発生した場合に PowerChute Business Edition エージェントがシステムのシャットダウンを開始します。(これらのイベントの詳細については、コンソールのオンラインヘルプを参照して下さい)。

- バッテリー状態しきい値超過
- ローランタイム状態
- ローバッテリー状態
- UPS 内部温度しきい値超過
- バッテリー状態時に通信切断
- UPS 過負荷

注意：利用できるランタイムが不十分またはバッテリー消費イベントの発生時に **UPS** がバッテリー動作に切り替わると、すぐにシャットダウンが開始されます。

(2) シャットダウンイベント (ランタイムを重視)

[サーバの稼働時間を最大限にする (ランタイムを重視)] (電源保護方針) を選択すると、次のいずれかのイベントが発生した場合に PowerChute Business Edition エージェントがシステムのシャットダウンを開始します。(これらのイベントの詳細については、コンソールのオンラインヘルプを参照して下さい)。

- ローランタイム状態
- ローバッテリー状態
- UPS 内部温度しきい値超過
- バッテリー状態時に通信切断
- UPS 過負荷

注意：利用できるランタイムが不十分またはバッテリー消費イベントの発生時に **UPS** がバッテリー動作に切り替わると、すぐにシャットダウンが開始されます。

設定プロファイル変更時のエラーおよびステータスメッセージ

設定プロファイルの変更時に表示される可能性のあるメッセージについては、10 ページの「(1) UPS 設定プロファイルの作成ウィザードのメッセージ」を参照してください。デバイスリスト中のシステムに設定プロファイルを適用する際に表示される可能性のあるメッセージについては、10 ページの「(2) 設定プロファイル適用時のログメッセージ」を参照してください。

(1) UPS 設定プロファイルの作成ウィザードのメッセージ

ウィザードを使って設定プロファイルの作成や変更を行う際に表示される可能性のあるメッセージを次に示します。

メッセージ	説明
設定プロファイル中に次のエラーが検出されました。	次のような問題が発生していることを表しています。 <ul style="list-style-type: none">指定されていない E-mail パラメータがある。ブロードキャスト通知アドレスが指定されていない。適切な通知手段を選択する必要がある。 この問題を解決するためには、適切な通知手段を設定して下さい。
新しい設定プロファイルはまだ保存されていません。本当に終了しますか？	[いいえ] を選択するとダイアログボックスに戻ります。[はい] を選択した場合、変更内容は破棄されます。
電源保護の設定を変更する場合、新しい設定プロファイルをデバイスリスト中のすべてのデバイスに適用し直す必要があります。この設定は UPS 個別に行った設定を上書きすることがあります。処理を続行しますか？	[いいえ] を選択すると、デバイスリスト中のシステムに設定プロファイルを再適用しないで、プロファイルの通知手段を変更することができます。[はい] を選択すると、新しいプロファイルがデバイスリスト中のシステムに適用されます。この場合、独自の設定を行っていたシステムは、再び設定し直す必要があります。

(2) 設定プロファイル適用時のログメッセージ

設定プロファイルの適用ログメッセージは、デバイスリスト中のシステムの設定プロファイルの変更ステータスを表しています。次のいずれかの作業を行った場合に報告されます。

- [設定プロファイルの作成 / 変更] ダイアログボックス (10 ページの「(1) UPS 設定プロファイルの作成ウィザードのメッセージ」を参照) を使用した後、デバイスリスト中のすべてのシステムへのプロファイルの適用を選択した。
- デバイスリスト中のシステムへの設定プロファイルの再適用を選択した (10 ページの「(1) UPS 設定プロファイルの作成ウィザードのメッセージ」を参照)。

このログを参照する際には、次のようなログエントリやメッセージが表示されます。

ログエントリ	説明
< ホスト名 > からの応答がありません。	もう一度設定プロファイルを適用し直して下さい。それでも問題が解決しない場合は、16 ページの「(5) 通信障害関連メッセージ」を参照して下さい。
< ホスト名 > がデバイスリストにありません。	システムがデバイスリストに登録されていません。該当するシステムの設定プロファイルは更新されません。
設定プロファイルを < ホスト名 > に適用できませんでした。	設定プロファイルの適用時に、システムのシャットダウンが開始されていたかまたは通信 (シリアルまたはネットワーク) が失われました。
< ホスト名 > に適したプロファイルが見つかりません。	サポートされていない UPS を使用しているか、またはシステムの PowerChute Business Edition エージェントが UPS と通信できません。
< ホスト名 > にプロファイルが正しく適用されました。	このシステムのプロファイルが更新されました。

メッセージ	説明
設定プロファイルの適用時にエラーが発生しました。	デバイスリスト中のシステムへの新規プロファイルの適用が完了しましたが、一部のシステムは新規プロファイルで更新できませんでした。
一部の変更は完了していません。今終了すると、設定プロファイルが正しく適用されたかどうかを確認することはできません。本当に終了しますか？	変更を完全に行わないままダイアログボックスを終了しようとしています。[はい] を選択すると、すでに更新された内容だけが有効になります。

2.6 デバイスリスト設定ウィザード

PowerChute Business Edition サーバをシステムにインストールする場合、初期設定プロファイルの作成が完了した後に、デバイスリスト設定ウィザードが起動します。デバイスリストには、PowerChute Business Edition サーバが管理するシステムを指定します。設定プロファイルは、これらのシステムに適用されます。

デバイスリスト設定ウィザードを使って、PowerChute Business Edition サーバのデバイスリストを作成することができます。デバイスリストを作成した後は、PowerChute Business Edition コンソールを使用してデバイスリストを変更できます。コンソールが利用できない場合は、デバイスリスト設定ウィザードを使用してデバイスリストを変更することができます。デバイスリスト設定ウィザードを起動するには、[スタート] → [プログラム] → [APC PowerChute Business Edition] → [デバイスリストウィザード] を選択するか、PowerChute Business Edition プログラムファイルフォルダにある「upslis.exe」を実行して下さい。

ウィザードを使った初期デバイスリストの作成方法、および既存のデバイスリストの変更方法については、12 ページの「2.7 デバイスリスト」を参照して下さい。ウィザード使用中に表示されるメッセージについては、10 ページの「設定プロファイル変更時のエラーおよびステータスメッセージ」を参照して下さい。

2.7 デバイスリスト

デバイスリスト設定ウィザードが起動すると、次の情報が表示されます。

- [検出されたデバイス]には、デバイスリストに追加できるシステムが表示されています。これらのシステムは自動的に検出されたものです。

注意：自動検出されるシステムについて、または検出処理の設定方法については、13 ページの「検出手順」を参照してください。

- [現在のデバイスリスト]には、すでにデバイスリストに登録されているシステムが表示されます。

注意：このダイアログボックスを使用時に表示されるメッセージについては、11 ページの「2.6 デバイスリスト設定ウィザード」を参照してください。

デバイスリストに登録するシステムの追加、削除方法を次の表に示します。

目的	作業
検出されたシステムの追加。	[検出されたデバイス]から目的のシステムを選択して、[追加 >]をクリックします。 注意：自動検出されるシステムについて、または検出処理の設定方法については、13 ページの「検出手順」を参照してください。
IP アドレスまたはホスト名を指定してシステムを追加する。	[新規]をクリックして、[現在のデバイスリスト]に緑色のチェックマークとともに表示されたタイトル(新規デバイス)を、目的のシステムのIP アドレスまたはホスト名に変更してください。
システムを削除する。	[現在のデバイスリスト]から目的のシステムを選択して、[< 削除]をクリックします。

目的のシステムを追加、削除し終わったら、[適用]をクリックして下さい。[デバイスリストの設定]ダイアログに、変更内容が反映されます。変更処理が完了するまでは、[閉じる]および[変更]ボタンは無効になっています。変更が完了したら、[閉じる]をクリックしてダイアログボックスを閉じます。デバイスリストをさらに変更したい場合には、[変更]をクリックして下さい。

注意：デバイスリスト変更時に表示されるメッセージについては、15 ページの「(4) サマリの変更メッセージ」を参照して下さい。

検出手順

PowerChute Business Edition サーバは、自己と同じユーザ名とパスワードを使用する PowerChute Business Edition エージェントがインストールされているシステムを自動的に検出します。

デフォルトでは、サーバと同じ IP セグメント上にあるシステムだけが検出されます。「デバイスリストの設定」ダイアログボックス内の [デバイス検出の設定] を使用して次の作業を行うことにより検出を行う IP セグメントの追加・削除が行えます。

- IP セグメントを追加する場合は [IP セグメント] に新しい IP セグメントを指定して、[追加 -->] をクリックして下さい。
- PowerChute Business Edition が特定のセグメントの検出をしないようにするには、[検出する IP セグメント] から目的のセグメントを選択して、[削除] を選択して下さい。
- [適用] をクリックすると、変更内容が反映されます。
- [閉じる] をクリックして、デバイスリスト設定ウィザードに戻ります。

注意：[検出の設定] のダイアログボックスを使用時に表示されるメッセージについては、14 ページの「(3) 検出過程のメッセージ」を参照して下さい。

デバイスリスト登録時のエラーおよびステータスメッセージ

システムをデバイスリストに登録すると、そのシステムにサーバの PowerChute Business Edition 設定プロファイルが適用されます。デバイスリスト設定ウィザードを使って既存のデバイスリストを変更する際に、設定プロファイルが見つからない場合に表示されるメッセージについては、13 ページの「(1) 設定プロファイルアクセス失敗メッセージ」を参照してください。

このウィザードの使用時に表示されるメッセージについては、次の各項目を参照してください。

- (2) デバイスリスト設定ウィザードのメッセージ
- (3) 検出過程のメッセージ
- (4) サマリの変更メッセージ

注意：状況を説明するメッセージに関する説明はありません。

(1) 設定プロファイルアクセス失敗メッセージ

デバイスリスト設定ウィザードを使って既存のデバイスリストを変更する際に、設定プロファイルが見つからない場合は、次のようなメッセージが表示される可能性があります。

メッセージ	説明
デフォルトの設定プロファイルが作成されていません。デバイスをデバイスリストに追加するには、設定プロファイルを作成する必要があります。作成しますか？	設定プロファイルが存在していません。プロファイルを作成する場合は、[はい]をクリックして下さい。プロファイルがないと、デバイスリスト設定ウィザードにアクセスすることはできません。
現在の設定プロファイルを取得することができません。 PowerChute Business Edition サーバから応答がありません。もう一度実行しますか？	問題が解決しない場合は、16 ページの「(5) 通信障害関連メッセージ」を参照してください。

(2) デバイスリスト設定ウィザードのメッセージ

デバイスリスト設定ウィザードの使用時に表示されるメッセージを次に示します。

メッセージ	説明
デバイスリストの変更は適用されません。本当に終了しますか？	デバイスリストに変更内容を適用する前に [キャンセル] がクリックされました。[はい] をクリックすると、変更内容は破棄されます。
このサーバが管理するデバイスは不明です。PowerChute Business Edition サーバからの応答がありません。	ウィザードを終了した後、再起動して下さい。それでも問題が解決しない場合は、16 ページの「(5) 通信障害関連メッセージ」を参照してください。
PowerChute Business Edition サーバからの応答がありません。 もう一度操作を行って下さい。	それでも問題が解決しない場合は、16 ページの「(5) 通信障害関連メッセージ」を参照してください。

(3) 検出過程のメッセージ

[検出の設定] ダイアログボックスを使って、検出手順時に検出する IP セグメントのリストを変更する際に表示されるメッセージを次に示します。

メッセージ	説明
次の検出状態を設定できません : PowerChute Business Edition サーバから応答がありません。もう一度実行しますか？	問題が解決しない場合は、16 ページの「(5) 通信障害関連メッセージ」を参照してください。
検出セグメントを判断できません。 PowerChute Business Edition サーバから応答がありません。もう一度実行しますか？	問題が解決しない場合は、16 ページの「(5) 通信障害関連メッセージ」を参照してください。
検出セグメントは 10 個までしか指定できません。	[検出の設定] ダイアログには、すでに PowerChute Business Edition が検出する IP セグメントが限度数まで指定されています。

(4) サマリの変更メッセージ

このログを参照する際には、次のようなログエントリやメッセージが表示されます。

ログエントリ	説明
<ホスト名>からの応答がありません。	このシステムをもう一度追加して下さい。それでも問題が解決しない場合は、16 ページの「(5) 通信障害関連メッセージ」を参照してください。
<ホスト名>は、すでにデバイスリストに存在しています。	システムはすでにデバイスリストに存在していません。
<ホスト名>がデバイスリストにありません。	システムはデバイスリストからすでに削除されています。
<ホスト名>を追加しました。	このシステムをデバイスリストに追加しました。
<ホスト名>を追加できません。すでに<サーバ名>が管理しています。	このシステムは、他の PowerChute Business Edition サーバのデバイスリストに登録されています。同じシステムを複数の PowerChute Business Edition サーバで監視することはできません。
<ホスト名>を追加できません：デバイスの限度数に達しました。	デバイスリストには、すでに PowerChute Business Edition サーバのライセンスで許可されている限度数までのシステムが追加されています。
<ホスト名>が見つかりません。	PowerChute Business Edition サーバは、このシステムを見つけることができません。システムが存在していない、システムがネットワークに TCP/IP で接続されていない、または PowerChute Business Edition エージェントがシステムにインストールされていない可能性があります。
<ホスト名>にログインできません。	このシステムの PowerChute Business Edition エージェントは、PowerChute Business Edition サーバと同じユーザ名とパスワードを使用していません。
<ホスト名>の追加に失敗しました。	このシステムをもう一度追加してください。それでも問題が解決しない場合は、16 ページの「(5) 通信障害関連メッセージ」を参照してください。
設定プロファイルを<ホスト名>に適用できませんでした。	一般的にこのメッセージは、サポートしていない UPS をシステムが使っていることを示しています。ただし、設定プロファイルの適用時に該当するシステムがシャットダウン中だったり、通信（ネットワークまたはシリアル）が失われた場合にも、このエントリが記録されることがあります。
<ホスト名>の削除に失敗しました。	このシステムを削除するために、設定ファイルにアクセスすることができません。
<ホスト名>を削除しました。	このシステムをデバイスリストから削除しました。
<ホスト名>は省略しました。すでにリストに追加されています。	同じシステムを複数定義しています。たとえば、同じシステムをホスト名と IP アドレスの両方で重複して指定しています。

メッセージ	説明
応答しないシステムがあります。デバイスリストを更新します。	すべての変更が成功した訳ではなく、デバイスリストは成功した変更内容だけを反映することを表しています。
デバイスリストの変更が完了していません。本当に終了しますか？	すべての変更が完了しないまま終了しようとしています。[はい]をクリックした場合、正しく変更が完了した設定だけが有効になります。
デバイスリストを更新します。	すべての変更を完了する前にダイアログボックスを終了した場合に表示されます。終了するまでに行った変更内容で、デバイスリストを更新することを表しています。

(5) 通信障害関連メッセージ

この問題は、次の原因が考えられます。

- ネットワークの混雑またはネットワーク障害により、PowerChute Business Edition コンソールの [アプリケーションの設定] ダイアログボックスの [リクエストタイムアウト時間] に指定された時間 (デフォルトでは 20 秒) が経過する前に、通信障害が発生した。

注意：PowerChute Business Edition コンソールから [リクエストタイムアウト時間] の値を変更することができます。メニューから [表示] → [設定] を選択し、[ネットワーク] タブ内の「リクエストタイムアウト時間」を変更してください。

- 応答を受信する前にネットワーク通信が失われた。
- システムが存在していない、システムが停止している、またはシステムがネットワークから切断された。
- システムが PowerChute Business Edition エージェントを使用していない、エージェントが動作していない、または PowerChute Business Edition エージェントが PowerChute Business Edition サーバと同じユーザ名とパスワードを使用していない。

3 運用上の問題点と注意事項

PowerChute Business Edition 使用時に発生する問題および注意事項については、各項目を参照して下さい。

DNS サーバが見つからない場合のネットワーク通信上の問題

次のような場合、PowerChute Business Edition エージェント、サーバ、およびコンソールに関するネットワーク通信に問題が発生する場合があります。

- DNS サーバがない、または見つからない場合
- 最近ローカルシステムがネットワークから切断された場合
- ローカルシステムと DNS サーバ間にネットワーク上の問題が発生した場合

またこの問題は、ピアツーピアネットワークを利用している場合や、スタンドアロンシステムを利用している場合にも発生することがあります。このようなネットワーク通信に関する問題が発生した場合は、PowerChute Business Edition が DNS サーバを使ってホスト名を解決する代わりに IP アドレスを使用します。次の作業を行って下さい。

1. PowerChute Business Edition コンソールを起動します。
2. [表示]メニューから [設定] を選択します。
3. [ネットワーク] タブを選択します。
4. [ホスト名を解決する] オプションの選択を解除します。
5. [適用] をクリックします。

PowerChute Business Edition のアンインストール

PowerChute Business Edition をアンインストールした際、OS 標準 UPS サービスは有効化されます。しかし、OS 起動時にサービスが起動するようにするためには、サービスのスタートアップの種類を [自動] に選択する必要があります。[サービス] のダイアログボックスで、「Uninterruptable Power Supply サービス」をダブルクリックし、[スタートアップの種類] を [自動] に変更してください。サービスをすぐに開始する場合は、[開始] ボタンをクリックして下さい。

PowerChute Business Edition をアンインストール後、フォルダやファイルがインストールフォルダに残る場合があります。PowerChute Business Edition のインストールフォルダを確認し、フォルダの中身とともに削除して下さい。

PowerChute Business Edition エージェントのアンインストール時に、次のようなメッセージが表示されることがあります。

メッセージ	説明
-------	----

エージェントサービスの削除時にエラーが発生しました。セットアップ終了後に再起動して下さい。

PowerChute Business Edition エージェントサービスの削除に失敗しました。サービスがハングアップしているか、インストールされていないか。

Windows XP の制限付きユーザ

PowerChute Business Edition コンソールは、Windows XP の制限付きユーザモードで使用するよう設計されていません。制限付きユーザは PowerChute Business Edition コンソールを実行することができません。

UPS セルフテストがログに記録されないことがある

UPS セルフテストイベントは PowerChute Event ログに記録されない場合があります。UPS のフロントパネルから行われたセルフテストはログに記録されません。PowerChute Business Edition からセルフテストを実行した場合も結果が記録されないことがあります。

コンソール上でイベントがクリアされない

シンプルシグナリング接続の際、バッテリー状態時間しきい値超過イベントが発生すると、その後このイベントの状態から復帰しても、コンソール上からこのイベントがクリアされません。最新のイベントについては、イベントログを参照して下さい。

コンソールからイベントをクリアするには次の 3 つの方法があります。

- 方法 1: 対象サーバ上の PowerChute Business Edition エージェントサービスを再起動する
- 方法 2: 対象サーバの OS を再起動する
- 方法 3: コンソールから対象サーバのデバイスのプロパティを表示し、通信ポートを一時的に変更して、イベントクリアした後に再び通信ポートを元の設定に戻す。
(ただしこの方法を実行した場合、通信ポート変更の際に「通信切断」のイベントが検出されます。)

スタンバイモードでの Agent 非作動

コンピュータがスタンバイモードになっているときには、PowerChute Business Edition エージェントサービスは作動しません。

コマンドファイルを実行するには

OS が Windows のサーバでコマンドファイルを実行するには、デスクトップとの対話をサービスに許可する必要があります。OS ごとに次の手順にて設定を行ってください。

<Windows 2000、Windows XP、Windows Server 2003 の場合 >

1. 管理ツールから「サービス」を起動します。
2. 「APC PBE Agent」サービスをダブルクリックします。
3. 「ログオン」タブを選択します。
4. 「デスクトップとの対話をサービスに許可」にチェックをいれます。
5. 「適用」を押し、「OK」を押します。

※コマンドファイルは、PowerChute Business Edition エージェントのインストールフォルダ内にある cmdfiles フォルダ内に作成してください。また、作成方法は同フォルダ内の default.cmd を参考にしてください。

<Linux の場合 >

コマンドファイルの作成は必ず root 権限で行ってください。また、コマンドファイルは、PowerChute Business Edition エージェントのインストールディレクトリ内にある cmdfiles ディレクトリ内に作成してください。コマンドファイル作成後は、そのファイルに対して root の実行権限を与えてください。(例 :chmod 700 cmd.sh)

※ root の実行権以外のパーミッションは、ご使用の環境に合わせて設定して下さい。

PowerChute Business Edition の E-Mail 受信者に使用できる文字について

E-Mail 通知機能に関して、メールアドレスに使用可能な文字、記号は以下のものになります。

これ以外の記号については、使用不可となっていますので、ご注意ください。

(使用可能文字・記号)

英数字、「_」(アンダスコア)、「.(ドット)」、「@」(アットマーク)、「-」(ハイフン)

「デバイスのプロパティ」で表示される UPS の情報欄について

PowerChute Business Edition エージェントをインストールしているサーバにおいて、PowerChute Business Edition エージェントサービスが起動してから初期処理が完了するまでの間、“不明”、“ネットワーク通信切断”の状態になることがあります。この状態では、UPS から必要な情報が得られていないので、対象サーバの「デ

バイスのプロパティ」を表示しても、UPS の情報欄が「エラー」と表示されてしまいます。

このような場合、PowerChute Business Edition コンソールで対象サーバが「正常」と表示された後に、「デバイスのプロパティ」を表示して、情報の確認を行ってください。

Linux サーバで PowerChute Business Edition エージェントを使用している場合に表示されるメッセージについて

Linux サーバで、PowerChute Business Edition エージェントを使用している場合、システム起動時に、以下のようなメッセージが表示されることがあります。同様のメッセージは「/var/log/messages」にも記録されます。

```
....  
rc: SDL RISCom/8 card driver v1.1, (c) D.Gorodchanin 1994-1996.  
rc0: RISCom/8 Board at 0x220 not found.  
rc1: RISCom/8 Board at 0x240 not found.  
rc2: RISCom/8 Board at 0x250 not found.  
rc3: RISCom/8 Board at 0x260 not found.  
rc: No RISCom/8 boards detected.  
....
```

本メッセージはシリアル分岐ボードのドライバ (RISCom) から出されているもので、このメッセージ表示を停止することはできません。

メッセージ表示の有無にかかわらず、PowerChute Business Edition は正常に動作いたします。また、シリアル分岐ボードが使用されていない場合は、このメッセージは無視していただいても問題ありません。

PowerChute Business Edition を Windows XP で使用時、「デバイスリストの設定」画面に間違ったホスト名が表示される現象について

PowerChute Business Edition サーバまたはコンソールを Windows XP で使用時、[デバイスリストの設定]画面に検出されたデバイスのホスト名が間違っって表示されることがあります。

この問題を回避するためには、Windows XP の hosts ファイル、または lmhosts ファイルに、PowerChute Business Edition エージェントがインストールされているマシンの IP アドレスとホスト名を追加してください。

PowerChute Business Edition コンソール、デバイスリストウィザード、および設定プロファイルウィザードの画面が正しく表示されない

ターミナルサービスに接続する際に使用する接続クライアントアプリケーションについて、Windows 2000 の「ターミナルサービスクライアント」を使用してターミナルサーバに接続し、PowerChute Business Edition コンソール、デバイスリストウィザード、および設定プロファイルウィザードを起動した場合、画面が正しく表示されません。これは「ターミナルサービスクライアント」の表示可能色数が少ないために発生します。

PowerChute Business Edition コンソール、デバイスリストウィザード、設定プロファイルウィザードを正しく表示させるための要件は以下になります。

PowerChute Business Edition コンソールの要件

要件	最低	推奨
解像度	800 x 600	1024 x 768 (以上)
表示色数	16 ビットカラー	24 ビットカラー
Internet Explorer のバージョンは 6 以降		

使用する接続クライアントアプリケーションが「リモートデスクトップ接続」の場合は上記要件を満たすことができますので正しく表示できます。

UPS 装置を使用して Windows Server 2003 サーバの電源制御を行う場合の注意

Windows Server 2003 サーバに「PowerChute Business Edition エージェント」コンポーネントをインストールし、UPS 装置を使用してサーバ装置の電源制御を行う場合、サーバ装置の BIOS 設定において、AC-LINK(AC 連動モード)設定に「Power ON」が設定可能か確認してください。確認方法はサーバ添付のユーザズガイドを参照してください。「Power ON」相当の設定の可否により、提供できる機能が異なります。

注意：なお、AC-LINK は、サーバ機種により「After Power Failure」と記載されている場合があります。

設定不可	停電発生による安全なシャットダウンはできませんが、復電後のサーバ自動起動はできません。また、スケジュールによるサーバの自動シャットダウンはできませんが、スケジュールによるサーバの自動起動はできません。
設定可能	停電シャットダウン後の復電によるサーバの自動起動、あるいはスケジュールによるサーバの自動起動を行われる場合は、「Power ON」に設定してください。 注意：サーバによっては工場出荷時に「Last State」と設定されているものがありますので、運用前にサーバ装置の BIOS 設定を確認することを強くお奨めします。

Windows Server 2003 で WebUI を使用する際の注意

Windows Server 2003 サーバ上で、以下に挙げる操作を行う場合、Internet Explorer(以下 IE と省略)のセキュリティ設定を変更する必要があります。

- ・ PowerChute Business Edition コンソールを使用する
- ・ IE を使用して PowerChute Business Edition エージェントにアクセスする

< セキュリティの設定変更について >

IE のメニューから

[ツール]-[インターネットオプション]

を選択し、"セキュリティ" タブを選択後、以下のいずれかの設定を行ってください。

(設定変更 1)

"インターネット" を選択し、「このゾーンのセキュリティレベル」を「中」に変更。

(設定変更 2)

"信頼済みサイト" を選択し、『サイト』ボタンを選択後、対象のサーバへアクセスするための URL を入力し、『追加』ボタンにより登録してください。

http://(対象サーバの IP アドレス)

< 例 >

アクセスするサーバの IP アドレスが 192.168.0.3 の場合、"信頼済みサイト" には以下のように登録します。

http://192.168.0.3

WebUI を使用する場合

PowerChute Business Edition にて WebUI (Web UI の詳細については PowerChute Business Edition インストールガイドを参照してください) を使用する場合、使用する Web ブラウザは Windows マシンの場合 Internet Explorer 6 以降、Linux マシンの場合 Netscape 7.0 が必要です。また、Java Runtime Environment (JRE) がクライアントマシンにインストールされている必要があります。JRE をお持ちでない場合、サン・マイクロシステムズ社の Web サイトより JRE をダウンロードして、インストールしてください。

- Windows マシンから Internet Explorer を使用する場合は JRE v1.4.1 または v1.4.2 をご使用ください。
- Linux マシンから Netscape を使用する場合は JRE v1.4.1 をご使用ください。

注意：マイクロソフト社の「32 ビット Microsoft 仮想マシン」では WebUI をご使用できません。

注意：Red Hat Enterprise Linux AS/ES 3.0 マシンに Netscape をインストールする際、OS のインストール CD-ROM 媒体に含まれている「compat-libstdc++-7.3-2.96.122.i386.rpm」を先にインストールして下さい。

注意：MIRACLE LINUX Standard Edition 2.1 サーバから WebUI を使用する場合、画面左側のメニューにおいて全角文字が表示されないことがあります。その場合、Netscape のメニューより【編集】-【設定】を選択し、画面左側のツリー（カテゴリ）より、【表示】-【フォント】を選択します。画面右側の「ドキュメントで他のフォントを使用できるようにする」のチェックを外して下さい。

Windows マシン上でポップアップメッセージを表示させるには

PowerChute Business Edition のユーザ通知機能について、Windows マシンにてポップアップメッセージを受信し、表示させたい場合、ポップアップメッセージを受信し表示する側のマシンにおいて「Messenger」サービスが動作している必要があります。

注意：Windows Server 2003 の場合、OS のデフォルト設定において「Messenger」サービスが自動で起動するように設定されていない場合があります。ポップアップメッセージを受信し、表示させる場合は必要に応じて「Messenger」サービスが「自動」で起動する等適切な設定に変更してください。

Windows Server 2003 のターミナルサービス経由のアンインストールについて

Windows Server 2003 サーバにターミナルサーバーサービスがインストールされている状態で、PowerChute Business Edition の "サーバ" コンポーネントおよび、"コンソール" コンポーネントをアンインストールした場合、Windows の [スタート] メニューに登録される [APC PowerChute Business Edition] 配下のメニューが削除されないことがあります。

削除されなかったメニューはアンインストール後、手動で削除してください。なお、PowerChute Business Edition の "サーバ" および "コンソール" をアンインストール後、以前と異なるパスにインストールした場合、[スタート] メニューに残った [APC PowerChute Business Edition] 配下のメニューに関するリンク情報は、新たにインストールされたパスの情報に更新されます。

OS アップグレードおよび Service Pack 適用

OS をアップグレードする場合や Service Pack を適用する場合は、PowerChute Business Edition をいったんアンインストールし、アップグレードの実施もしくは Service Pack の適用が完了してから、再び PowerChute Business Edition をインストールしてください。

アンインストール後は、サーバを再起動する前にサーバからシリアルポートから通信ケーブルを取り外してください。

PowerChute Business Edition アンインストール時の UPS 通信ケーブルの取り外し

PowerChute Business Edition をアンインストールして、再インストールする前にシステムを手動で再起動するような場合、サーバから UPS と通信するためのシリアルケーブルを取り外してください。

再起動時に、OS から通信ポートに文字列が送信され、UPS がスマートシグナルモジュールの場合、UPS がこの文字列をバッテリー動作に切り替える命令と解釈してしまうことがあります。

例えば、PowerChute Business Edition がインストールされていない状態で UPS のシリアルポートに通信ケーブルが接続されたシステムを再起動すると、OS が送信した文字列によって UPS がバッテリー動作に切り替わりランタイム較正が実行されてしまいます。このような不要なバッテリー動作への切り替えによってバッテリー残量が減少し、インストールが失敗することがあります。

PowerChute Business Edition の E-Mail 通知機能に関して

PowerChute Business Edition では、SMTP 認証等のユーザ認証を行う E-Mail 送信をサポートしていません。E-Mail 通知機能を利用する場合はユーザ認証を必要としない SMTP サーバを使用してください。

エクスポートの区切り文字についての制限事項

PowerChute Business Edition コンソールの「電源イベントサマリ」、「電圧分析」を表示しているときに、コンソールのメニュー [コンソール] [エクスポート] を選択することで表示されるエクスポートに関する設定ウィンドウにおいて、「データ」タブの区切りを「カスタム」として選択している場合、右の入力欄にプロンプトが表示されます。その入力欄に入力する文字列について、以下の制限事項があります。

- 入力欄には何文字も入力できますが、区切り文字として認識されるのは最初の 1 文字のみです。
- 入力文字は 1 バイト文字であり、ASCII コードの 33(0x21) '!' (エクスクリメーション) から 126(0x7E) '~' (チルダ) までの文字に限られます。

PowerChute Business Edition のスケジュール機能を使用してシャットダウン / 起動の自動運転を行う際の注意

PowerChute Business Edition コンソールにて設定できるシャットダウン / 起動のスケジュール機能 (スケジュール機能の詳細はインストールガイドを参照してください) を利用して、サーバの自動運転を行う場合、PowerChute Business Edition のスケジュール機能以外の手段によりサーバがシャットダウンされると、スケジュール設定が有効になりません。

(スケジュールどおりに起動しない例)

20:00 オフ、8:00 オンのスケジュール設定を行っているとしみます。ここで保守作業などのため 21:00 にサーバを起動し、22:00 に PowerChute Business Edition のスケジュール機能以外でシャットダウンした場合、その後のスケジュール設定は有効となりません。つまり、8:00 にサーバは自動でオンされません。

PowerChute Business Edition のスケジュール運転の設定を有効にするには、PowerChute Business Edition のスケジュール機能によりシャットダウンを行ってください。

WebUIの「接続しているすべてのユーザに通知」によりメッセージ送信される範囲

WebUIの「接続しているすべてのユーザに通知」の機能はエージェントがインストールされている OS により、それぞれ以下の仕様になっています。

<Windows の場合 >

- エージェントマシン自身にメッセージを送信
- (IP アドレス指定ではなく) マシン名指定によりエージェントのマシンにネットワークドライブ接続し、かつそのネットワークドライブにアクセスしている場合、あるいはエクスプローラから直接エージェントマシンの共有フォルダにアクセスしている場合、そのアクセスしているクライアントマシンにメッセージを送信

※制限事項：(送信元ホスト名)+(送信先ホスト名)の文字数の合計が 23 バイト以上の場合、メッセージ送信されません。(エージェントがインストールされているマシンのホスト名が 12 バイト以上の場合、ローカルにもメッセージ送信されません)

<Linux の場合 >

- エージェントがインストールされているマシンのターミナルにメッセージを送信
- エージェントのマシンに telnet 等でログインしているクライアント マシンのターミナルにメッセージを送信

WebUI のイベントアクション設定一覧の画面で E-Mail 通知に丸印がつかないイベント

WebUI のイベントアクションの設定において「管理上のシャットダウン待機中」と「シャットダウン中」のイベントの「E-Mail 送信を有効にする」をチェックしても、イベントアクション設定一覧画面において、「管理上のシャットダウン待機中」と「シャットダウン中」に丸印が付きません。しかし、E-Mail は問題なく送信されます。

WebUI のイベントアクション「ローバッテリー状態」の説明について

WebUI のイベントアクション「ローバッテリー状態」を選択したときに表示されるローバッテリー状態のイベントの詳細には「UPS がローランタイムしきい値を下回りました。」と記載されていますが、ローランタイムではなくローバッテリーと読みかえてください。

WebUI のタイムアウト時間について

WebUI の操作を何も行わずに、5 分間放置しておくと、WebUI がタイムアウトします。タイムアウト後に WebUI メニューを選択すると「アクセスが拒否されました」の画面になりますので、「ログインページに戻る」リンクからログインをやり直してください。

WebUIの「連絡先の名前」、「システムの場所」に入力可能な文字について

WebUIの[保護されたシステム]-[システムの設定]にて設定する「連絡先の名前」および「システムの場所」に入力可能な文字は以下の通りになっています。下記以外の文字を入力された場合、「アクセスが拒否されました」の画面になりますのでご注意ください。

< エージェントが Windows の場合 >

半角英数字、記号 *1

全角英数字、ひらがな、カタカナ、漢字、アルファベット、記号 *2

< エージェントが Linux の場合 >

半角英数字、記号 *1

*1: サポートされる半角記号は以下の通りです。

!	エクスクラメーション	*	アスタリスク
@	アットマーク	(左丸カッコ
#	シャープ)	右丸カッコ
\$	ダラー	.	ドット
%	パーセント	-	ハイフン
^	ハット	_	アンダスコア

*2: サポートされる全角記号は以下の通りです。

!	エクスクラメーション	*	アスタリスク
@	アットマーク	(左丸カッコ
#	シャープ)	右丸カッコ
\$	ダラー	。	読点
%	パーセント	—	アンダスコア
^	ハット		

Windows Server 2003 でシャットダウンタイプを「休止する」にして使用する際に記録されるログについて

Windows Server 2003 サーバにおいて、シャットダウンタイプを「休止する」に設定して、スケジュールによるサーバの自動休止 / 再開および、停電時の自動休止を行う場合、OS のシステムログに以下のログが記録されます。これは、OS の休止機能を PowerChute Business Edition が無効にするために記録されるログです。下記ログは記録されますが、PowerChute Business Edition の機能に影響はありません。

ID:262 警告

ソース :PlugPlayManager

説明 : サービス "APCPBEAgent" は電源イベント要求を拒否しました。

シャットダウンタイプを「シャットダウンと電源オフ」に設定して運用する際の注意

PowerChute Business Edition により OS シャットダウンが行われた後、直ちにサーバの電源がオフされる設定です。このシャットダウンタイプを選択している場合、サーバ装置の BIOS にて設定する「AC-LINK」の設定が「Power ON」であるか、それ以外になっているかにより、UPS から電源供給が再開した後の動作が異なります。

< 「Power ON」に設定している場合 >

UPS 装置からの電源供給が再開されると、サーバも自動起動されます。

< 「Power ON」以外に設定している場合 >

UPS 装置からの電源供給が再開された後も、サーバは自動起動されない場合があります。サーバが起動していなかった場合、起動するためにはサーバの電源スイッチを手動オンしていただく必要があります。

重要：このシャットダウンタイプを選択し、かつ「AC-LINK」の設定を「Power ON」以外に設定している場合、電源障害によるサーバシャットダウン後の電源回復によるサーバの自動起動や、スケジュール運転によるサーバの自動運転が行えませんので、本事項を十分にご理解の上でご使用ください。

シャットダウンタイプを「休止する」に設定して運用する際の注意

シャットダウンタイプを「休止にする」を選択することで、PowerChute Business Edition によりシャットダウン処理が行われた場合、サーバを休止状態にすることができます。ただし「休止する」を選択するためには、ご使用の環境において休止状態が使用可能であることが条件となります。使用可能かどうかを判断するためには[コントロールパネル]-[電源オプション]を選択してください。「休止状態」タブが表示されており、そのタブを選択して「休止状態を有効にする」のチェックボックスがオンになっていれば、休止状態が使用できます。

ただし「休止状態」を使用する場合、ご使用のハードウェア、OS、アプリケーションにおいて「休止状態」を使用することにより問題が発生しないことを十分に確認してください。

重要：シャットダウンタイプを「休止する」にして運用する場合、以下の制限事項がありますのでご注意ください。

- Windows 2000 環境において、休止状態からのウエイク後キー・マウスインプットなどを行わずに放置しアイドル状態が 5 分続くと、再び休止状態に入りそれ以降 PowerChute Business Edition エージェントサービスは動作しません。(詳細はマイクロソフト社のサポート技術情報 KB282208 を参照してください)

上記現象によりサーバが再び休止状態になった場合、サーバは休止状態から自動復旧されず、手動にて休止状態から復旧させる必要があります。停電ま

たはスケジュールによるサーバの自動運用を行う場合は、「休止する」を使用しないことをお奨めします。

- Windows XP Professional 環境において、休止状態からのウエイク後キー・マウスインプットなどを行わずに放置しアイドル状態が 5 分続くと、再び休止状態に入りそれ以降 PowerChute Business Edition エージェントサービスは動作しません。

(詳細はマイクロソフト社のサポート技術情報 KB318355 を参照してください)

上記現象によりサーバが再び休止状態になった場合、サーバは休止状態から自動復旧されず、手動にて休止状態から復旧させる必要があります。停電またはスケジュールによるサーバの自動運用を行う場合は、「休止する」を使用しないことをお奨めします。

ランタイム較正を実行中にスケジュールシャットダウンを行っても UPS がオフされない

シャットダウン/起動のスケジュールが登録されているサーバ上でランタイム較正が行われている場合、スケジュールシャットダウン時間になるとサーバのシャットダウンは行われますが、UPS ではランタイム較正が実行されたまま電源供給が停止しないため、スケジュール起動時間になってもサーバは起動しません。

ランタイム較正を実行する場合は、そのランタイム較正中にスケジュールによるシャットダウンが行われないように注意してください。

UPSSleep 実行の際に引数として指定可能な最小の次回起動時間

UPSSleep 実行の際に引数としてサーバの次回起動時間を指定しますが、指定できる最小の次回起動時間は、

(そのサーバ上の現在のシステム時間)+ 6 分後

になります。それより少ない時間を次回の起動時間に指定した場合、UPSSleep はそのコマンドを拒否し、下記のエラーが OS のアプリケーションログに記録されます。

ID:3400

ソース :APCPBEUPSSleep

説明 : 引数が無効です。

UPSSleep 実行の際に引数として指定可能な最大の次回起動時間

UPSSleep 実行の際に引数として指定可能な最大の次回起動時間は

(そのサーバ上の現在のシステム時間)+13 日 23 時間 54 分後

になります。それ以上先の時間を指定した場合、UPSSleep はそのコマンドを拒否し、下記のエラーが OS のアプリケーションログに記録されます。

ID:3400

ソース :APCPBEUPSSleep

説明 : 引数が無効です。

最終バッテリー交換日に設定可能な日付

PowerChute Business Edition コンソールの「デバイスのプロパティ」を表示して [全般]-[バッテリステータス] を選択することで設定可能な「最終バッテリー交換日」について、設定可能な日付は“2079/12/31”までとなっています。それ以降を設定した場合、エラーが表示されます。

サービスおよび「コマンドファイルのディレクトリ」にて表示されるパス情報について

PowerChute Business Edition のエージェント、サーバのサービスに関する情報、および「コマンドファイルのディレクトリ」を選択した時に表示される情報について、8.3形式の短いパス名で表示されます。

<PowerChute Business Edition の各サービスに関する情報について >

[コントロールパネル]-[管理ツール]-[サービス] を選択して、「APC PBE Agent」サービスおよび「APC PBE Server」サービスのプロパティを表示した際に表示される『実行ファイルのパス』情報について、インストールしたフォルダのパスが半角英数字で 6 文字以上の場合、パス名が 8.3 形式で表示されます。

また、PowerChute Business Edition サーバのサービスが動作中のサーバにおいて、タスクマネージャの「プロセス」タブを選択して表示される実行中のプロセス一覧に、「PBESER~1.exe」と表示されたプロセスがあります。そのプロセスはPowerChute Business Edition サーバサービスのプロセスを表しています。

<「コマンドファイルのディレクトリ」を選択時に表示されるパス情報について >

PowerChute Business Edition コンソールの「シャットダウンシーケンスの設定」ウィンドウを表示して最初に表示される「コマンドファイルの設定」において「コマンドファイルのディレクトリ」を選択すると、コマンドファイルが存在するパス情報が表示されますが、その表示されるパス情報のパス名が 8.3 形式で表示されます。

PowerChute Business Edition v.6.1 との混在について

PowerChute Business Edition v.6.1 の PowerChute Business Edition エージェントを PowerChute Business Edition v.7.0 のサーバおよびコンソールにて管理することはできません。同様に、PowerChute Business Edition v.7.0 の PowerChute Business Edition エージェントを PowerChute Business Edition v.6.1 のサーバおよびコンソールにて管理することもできません。

また、PowerChute Business Edition v.6.1 コンソールから PowerChute Business Edition v.7.0 サーバへの接続、および PowerChute Business Edition v.7.0 コンソールから PowerChute Business Edition v.6.1 サーバへの接続についても同様に未サポートです。

旧バージョンの PowerChute Business Edition が既にインストールされている場合について

旧バージョンの PowerChute Business Edition が既にインストールされている場合は、旧バージョンの PowerChute Business Edition をアンインストールした後、本バージョンの PowerChute Business Edition をインストールしてください。

Linux の PowerChute Business Edition エージェントサービスの動作確認について

Linux サーバ上で PowerChute Business Edition エージェントが動作している場合、以下のファイルが存在し、そのファイルには PowerChute Business Edition エージェントのプロセス ID が記録されます。

```
/etc/pbeagent.pid
```

PowerChute Business Edition エージェントの動作しているか確認するためには、以下の操作を行ってください。

1. 対象の Linux サーバにログインしてください。

作業はすべて root 権限にて実行してください。一般ユーザにてログインしている場合は、「su -」コマンド等により root 権限になった後、実行してください。

2. 「kon」コマンド等により、コンソールを日本語表示可能な状態にしてください。
3. 下記コマンドを実行してください。

```
# cat /etc/pbeagent.pid
```

PowerChute Business Edition エージェントが動作している場合、上記コマンドを実行すると、番号 (PowerChute Business Edition エージェントのプロセス ID) が表示されます。

4. 「ps (プロセスID)」コマンドにて PowerChute Business Edition エージェントプロセスを確認してください。

(例)

```
# cat /etc/pbeagent.pid
1049
# ps 1049
PID TTY STAT TIME COMMAND
1049 ? S 0:04 /bin/java/jre/1.4/bin/java
-Dpicard.main.thread=blocking -classpath ./lib/AdvSnmp.jar:./lib/application.j
```

注意：ps コマンドにて現在動作中の PowerChute Business Edition エージェントのプロセス ID を確認した場合、ご使用の環境によっては「/etc/pbeagent.pid」ファイルに記載されているプロセス ID のプロセスと同じようなプロセスが複数表示される場合があります。これは Java の仕様によるものであり、PowerChute Business Edition の動作に影響はございません。

```
# cat /etc/pbeagent.pid
1049
# ps aux
PID   TTY   STAT   TIME   COMMAND
.....
1049  ?    S      0:04   /bin/java/jre/1.4/bin/java
-Dpicard.main.thread=blocking -classpath ./lib/AdvSnmp.jar:./lib/
application.j
.....
1099  ?    S      0:00   /bin/java/jre/1.4/bin/java
-Dpicard.main.thread=blocking -classpath ./lib/AdvSnmp.jar:./lib/
application.j
1100  ?    S      0:02   /bin/java/jre/1.4/bin/java
-Dpicard.main.thread=blocking -classpath ./lib/AdvSnmp.jar:./lib/
application.j
.....
```

Linux の PowerChute Business Edition エージェントからのユーザ通知について

Linux にインストールした PowerChute Business Edition エージェントからのユーザ通知機能を使用する場合は、WebUI を使用して Linux の PowerChute Business Edition エージェントにアクセスして設定します。ただし、ユーザ通知機能を使用する場合は「接続しているすべてのユーザに通知」を選択してください。

「設定されている受信者に通知」の場合、送信されるメッセージ内容が文字化けしません。

Linux サーバ上で config.sh によりシグナリングタイプの変更を行った場合の注意

Linux サーバにログインして、「config.sh」コマンドを使用してシグナリングタイプを「Simple」（シンプルシグナリング）から「Smart」（スマートシグナリング）に変更した場合、「データログを有効にする」のチェックボックスが「オフ」になっていることがあります。『オフ』になっている場合、その Linux サーバではデータログの記録が行われません。

「config.sh」によりシグナリングタイプを「Simple」から「Smart」に変更後、データログが記録される設定になっているかを確認する場合は、PowerChute Business Edition コンソールから対象の Linux サーバの「デバイスのプロパティ」を表示し、左下の「詳細項目の表示」にチェックが入っていることを確認した後、「ログファイル」 - 「ログオプション」を選択してください。

Red Hat Enterprise Linux AS/ES 3.0 を使用する際の注意

Red Hat Enterprise Linux AS/ES 3.0 にインストールされている PowerChute Business Edition エージェントをデバイスリストに追加、およびリモートから WebUI にてアクセスするためには、Red Hat Enterprise Linux AS/ES 3.0 上にて「システム設定」 - 「セキュリティレベル」から、使用しているネットワークデバイス (eth0 など) を「信頼できるデバイス」として有効にしていることが必要となります。

MIRACLE LINUX Standard Edition 2.1 の OS 名が正しく表示されない

MIRACLE LINUX Standard Edition 2.1 にインストールされている PowerChute Business Edition エージェントついて、その OS 名を、PowerChute Business Edition コンソールで表示した場合、以下のように表示されます。

RedHat 7.1

Windows 環境にて、Smart-UPS500J を使用している場合の注意事項

Windows 環境にて、Smart-UPS500J を使用し、PowerChute Business Edition エージェントをインストールすると、UPS の自動検出において、「PowerChute Business Edition はこの機種種の UPS をサポートしていません」というメッセージが表示され、インストールが終了します。Smart-UPS500J を使用される場合は、UPS の自動検出を行わず、手動で設定してください。

4 サーバノード数の制限

ネットワーク上にインストールできる PowerChute Business Edition エージェント、PowerChute Business Edition サーバ、および PowerChute Business Edition コンソールの数に制限はありません。しかし、1 台の PowerChute Business Edition サーバで管理できる PowerChute Business Edition エージェントの最大数は 25 台までです。25 台を超える PowerChute Business Edition エージェントを管理する場合には、PowerChute Business Edition サーバは 2 台以上必要となります。

5 サードパーティのソフトウェア情報

本ソフトウェアは、サードパーティのソフトウェア（一部オープンソース）を使用し、開発しています。著作権情報を以下に記載します。

Portions of this software are Copyright (c) 1993 - 2001, Chad Z. Hower (Kudzu) and the Indy Pit Crew - <http://www.nevrona.com/Indy/>

Portions of this software are Copyright (c) 1997, 1998 by Francois PIETTE - <http://users.swing.be/francois.piette>

Portions of this software are Copyright 1989, 1991, 1992 by Carnegie Mellon University

Derivative Work - 1996, 1998-2000 Copyright 1996, 1998-2000 The Regents of the University of California.

All Rights Reserved

Portions of this software are Copyright (c) 2001, NAI Labs. All rights reserved.

Copyright (c) 1998-2001 The OpenSSL Project. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgment:
4. "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (<http://www.openssl.org/>)"
5. The names "OpenSSL Toolkit" and "OpenSSL Project" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For written permission, please contact openssl-core@openssl.org.
6. Products derived from this software may not be called "OpenSSL" nor may "OpenSSL" appear in their names without prior written permission of the OpenSSL Project.
7. Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment:

"This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org/>)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OpenSSL PROJECT "AS IS" AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OpenSSL PROJECT OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

This product includes cryptographic software written by Eric Young (ey@cryptsoft.com). This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Original SSLeay License -----

/ Copyright (C) 1995-1998 Eric Young (ey@cryptsoft.com) All rights reserved.

This package is an SSL implementation written by Eric Young (ey@cryptsoft.com). The implementation was written so as to conform with Netscape's SSL.

This library is free for commercial and non-commercial use as long as the following conditions are adhered to. The following conditions apply to all code found in this distribution, be it the RC4, RSA, lhash, DES, etc., code; not just the SSL code. The SSL documentation included with this distribution is covered by the same copyright terms except that the holder is Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Copyright remains Eric Young's, and as such any Copyright notices in the code are not to be removed. If this package is used in a product, Eric Young should be given attribution as the author of the parts of the library used.

This can be in the form of a textual message at program startup or in documentation (online or textual) provided with the package.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement:
4. "This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com)"
5. The word 'cryptographic' can be left out if the routines from the library being used are not cryptographic related:-).
6. If you include any Windows specific code (or a derivative thereof) from the apps directory (application code) you must include an acknowledgement:
"This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY ERIC YOUNG "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL

DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

The licence and distribution terms for any publicly available version or derivative of this code cannot be changed, i.e., this code cannot simply be copied and put under another distribution licence [including the GNU Public Licence.

Express5800 シリーズ

PowerChute[®] Business Edition v.7.0

リリースノート

2004 年 7 月 初版

日本電気株式会社

東京都港区芝五丁目 7 番 1 号

TEL (03) 3454-1111 (大代表)

©NEC Corporation 2004

日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。
本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。